

個別の指導計画の作成にむけた研修

谷崎秀昭（横浜市養護教育総合センター）

．横浜市の取り組み

横浜市においては、平成9年度の『横浜市における「個別教育計画」について（横浜市個別教育計画検討委員会）』を受けて、平成10年度に『横浜市個別教育計画作成の手引き』を作成し、平成11年度から市立盲・ろう・養護学校、特殊学級、通級指導教室の実践モデル校17校を指定して、平成14年度の個別教育計画実施に向けて研究を始めた。

市立盲・ろう・養護学校は11校全てがモデル校として実践に取り組んできた。

17校のモデル校では、研究テーマ、サブテーマをもとに研究を進めている。各学校の研究テーマを見ると「保護者との連携の在り方」「地域関係機関との連携の在り方」「校内組織の在り方」などを取り上げている。

保護者との連携では、実態把握や教育的ニーズを捉えるために保護者アンケートを実施したり、個人面談や家庭訪問の際に個別教育計画の

作成について説明し、保護者の声を聞く取り組みや地域・関係機関と連携した取り組みなどが報告され、校内組織について手引きの組織例をもとに検討された。

．研修講座について

研究モデル校と並行して平成11年度から養護教育総合センターの教職員研修で、「個別教育計画指導研修」を年間3回、平成12年度6回、平成13年度は基礎研修3回、専門研修3回を開催した。

1．研修講座の概要

基礎研修と専門研修を実施した。基礎研修は初めて個別教育計画を作成する教員を対象に考え方や演習を通して学ぶ研修、専門研修は実際に個別教育計画を作成している教員を対象として個々の事例を通して進める研修として位置付けて実施した。

[基礎研修]

研修形態	テーマ	対象	人数	時間
講義	個別教育計画の作成、その考え方と作成手順について	全校種	100人	2時間
講義・演習	個別教育計画を実際に作ってみよう子どもの実態把握と教育的ニーズの把握	全校種	100人	2時間
演習	作成した個別教育計画の検討	全校種	60人	2時間

[専門研修]

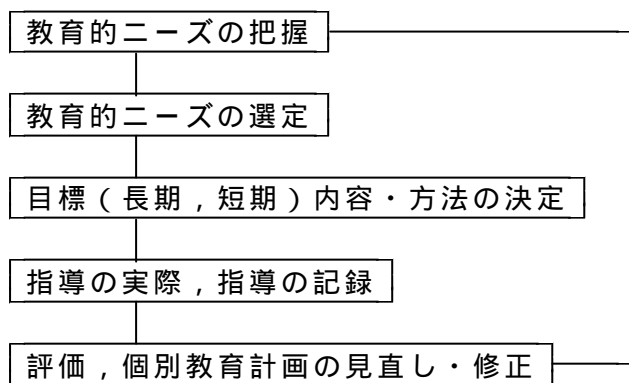
研修形態	テーマ	対象	人数	時間
事例研修	作成した個別教育計画の検討 - 子どもの実態把握と教育的ニーズの選定	全校種	40人	2時間
演習	作成した個別教育計画の検討 - 目標設定と指導プログラム	全校種	40人	2時間
事例研修	個別教育計画を授業にどう結びつけるか	全校種	40人	2時間

2. 研修講座の具体的な内容

< 講義 >

「個別教育計画の作成，その考え方と作成手順について」は，「横浜市個別教育計画作成の手引き」をもとに以下の項目で講義形式をとった。

- 1) 横浜市が目指す個別教育計画
個別教育計画の必要性
個別教育計画の基本的な考え方
 - ・個々の生き方を尊重する
 - ・子どもの教育的ニーズを明らかにする
 - ・子ども・保護者の参加を図る
 - ・地域・関係機関との連携を密にする
- 2) 個別教育計画作成の手順



- 3) 個別教育計画作成の組織と連携
作成に当たっての校内体制と組織
子供・保護者の参加の進め方
地域・関係機関との連携の進め方
- 4) 個別教育計画作成の方法及び留意点
教育的ニーズの把握
教育的ニーズの選定
教育目標・指導内容・方法の決定
評価・修正
- 5) 書式の内容
- 6) 個別教育計画の活用に合わせて

< 講義・演習 >

「子どもの実態把握と教育的ニーズの把握」では，実態把握について次の内容を取り上げた。

- 1) 情報収集
保護者からの入手する情報
 - ・家庭環境や家庭での様子，保護者のニーズ
 - ・診断名，障害名，医学的な配慮，服薬等関係機関からの情報
 - ・医学的な情報：診断名，障害名，医療的な配慮，服薬の有無など
 - ・訓練や指導について（OT，PT，ST等）
 - ・発達検査等の情報
- 2) 観察（アセスメント）
 - ・行動観察（日常生活場面，課題場面）
 - ・チェックシートによる観察

< 演習 >

実態把握の講義と合わせて，具体例をもとに演習を行った。以下に演習の手順や具体例，内容について示した。

- 1) 子どもの実態把握のサンプルから，子どものプロフィールをまとめる。
- 2) 演習1の資料で「子どもの実態から教育的ニーズや重点課題の選定について，グループ演習。
- 3) 研修参加者が担当している子どものケースについて，書式1（演習1）に，子どもの実態把握と教育的ニーズの把握を記入し，グループ検討。なお，検討の視点として次の2点を提示した。
教育的ニーズを選定するために子どもの特性を簡潔にまとめてあるか。
保護者と共に作っていくために表現は適切か。
- 4) 書式2（演習2）に教育的ニーズや重点課題の選定し，グループで検討。
- 5) 演習3，4で長期目標，短期目標の作成。
- 6) 長期目標，短期目標の確認。
- 7) 研修参加者が担当している子どものケースについて，書式3，4（演習3，4）に，長期目標，短期目標を作成し検討。

教育的ニーズの把握（書式1）

個別教育計画（教育的ニーズの把握）

名前
生年月日

（演習1）

項目		現在の状態
健康医療心理	障害の様子 発達の様子 興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症で常同行動やこだわりがある。 ・言語理解は3歳レベルで表出は単語が中心で自分の要求は伝えるが、やりとりは難しい。要求が通らないときは、パニックや自傷行為もある。 ・場面の切り替えが難しい。 ・電車や乗り物、ビデオなどの機械操作が好き。
生活	食事 登下校 生活リズム	<ul style="list-style-type: none"> ・偏食が激しく、野菜類はほとんど食べない。 ・通学路への強いこだわりがある。 ・睡眠リズムを崩しやすく授業中眠ることがある。
家庭 関係 地域	家庭の様子 本人の願い 保護者の願い 保護者要望 教師の願い 就学前 地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ・父親，母親，本児の3人家族。 ・学校帰宅後は、友達と遊ぶ機会はほとんどない。 ・土日には近くのスーパーへ家族で買い物に行く。 ・公園へ行きたい。お店で買物がしたい。 ・言葉でのやりとりができるようになってほしい。 ・パニックや自傷がなくなるといい。 ・近所で遊べるようになって欲しい。 ・交流の機会を増やして欲しい。 ・言葉で自分の気持ちを伝えることができる。 ・見通しを持てるような場の設定や対応が有効。 ・スイミングに週1回通っている。
教科・自立活動	国語 算数 生活 音楽 体育 図工 自立活動	<p>ひらがなは読めるが、書くのは名前のみである。数唱は10まででき、対応させて5まで数える。見通しの持てる活動には落ち着いて参加する。リズム体操は参加するが、歌は一緒に歌わない。肋木や跳び箱など高いところを好む。絵は苦手だが、工事的なことは好んで取り組む。絵カードなどで一日の予定が分かり、パターン化したやりとりはできる。</p>

（演習2）

書式2 教育的ニーズの選定（例）

内容
<p>教育的ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力の向上をはかる 買い物学習を通して自分の欲しい物を手に入れる。 豊かな経験を通してこだわりの改善をはかる。 熱中できる余暇活動を増やす。 パニックや自傷行為を改善する。 <p>重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力の向上をはかる。 <p>優先内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パニックや自傷行為を改善する。

(演習3) 記入例

項目	長期目標
生活	偏食を改善する。
教科等	国語・日常的な簡単なやりとりができる 生活・生活経験を広げ、新しい活動に参加する。 音楽・音楽の時間を楽しく過ごす。 自立活動・コミュニケーション能力を高め情緒の安定を図る。
家庭地域	・近くのお店で、一人で買い物ができる。 ・「はまっこ」ふれあいスクールに参加する。

(演習題4)

書式4 短期目標，指導内容及び指導経過（例）

項目	短期目標	指導	評価
生活	・食べられる野菜を増やす。		
教科 ・ 自立活動	国語・文字カードをヒントにして簡単なやり取りができる。 生活・初めての活動に慣れる 音楽・一緒に音楽にできる。 自立活動・パニックや自傷行為を減す。		
家庭地域	・決まったお店で買い物ができる。 ・「はまっこ」ふれあいスクールに慣れる。		

< 演習 >

「目標設定と指導プログラム」

- 1) 子どもの実態例から，長期目標，短期目標の設定。
- 2) 目標の妥当性の検討
 - ・発達の側面から
 - ・社会的側面から
- 3) 長期目標，短期目標の確認。
- 4) 具体的な指導計画を作成し，検討。
- 1) 指導計画とその実践例の紹介。

< 事例研修 >

「個別教育計画を授業にどう結びつけるか」

- 1) 実践提案を通じた研修

「個別教育計画に基づく教育課程作り」(資料：個別教育計画と学級の教育課程との関連を示した図)を具体的な実践提案をもとに協議し，在り方を検討する。

実践事例として出されたテーマを紹介すると「自閉的な傾向のあるAさんの個別教育計画と学級の教育課程」、「一人ひとりの教育的ニーズと学級集団の特性を生かした単元作り」など，一人ひとりの個別教育計画と学級の教育課程，具体的な単元設定，活動の流れと授業実践に伴う成果と課題などについて事例提案をもとに，参加者の協議と講師からの助言を受ける形での研修を行った。

- 2) 授業提案を通じた研修

実際の授業を通じた研修としては，生活単元学習「カレーパーティをしよう」や国語「色々な場面での話し方」など授業を通して個別教育計画を授業でどう生かすかについて提案し，授業後の研究会で指導計画や本時の個人目標と展開について協議し講師から助言を受ける研修を行った。

以上，横浜市の個別教育計画研修について紹介したが，

これらの研修と並行して教育相談研修として，「学校での保護者面談，相談の進め方」(講義と演習)という研修を取り上げた。個別教育計画は保護者の思いや願いを受け止め，保護者とともに作成していく計画であり，保護者のニーズをどのように受け止めてるかが，大切である。次年度はこの講義を個別教育計画の研修に位置づけていく予定である。

・ 個別教育計画についての保護者への周知

個別教育計画の作成にあたって，本人・保護者参加を原則としているので，保護者に個別教育計画の考え方や作成にあたっての協力の呼びかけが必要になってくる。

平成14年度実施に向けて，モデル校ではすでに個別教育計画作成にあたって保護者向けに実態把握や教育的ニーズを把握するためのアンケート，保護者面談などを行い，実際に作成した個別教育計画をもとに話し合いが行われている。今後，保護者向けに「個別教育計画」について周知を図っている必要がある。

・ 今後の課題と取り組み

個別教育計画の推進のために実践モデル校の取り組みや研修等を行ってきた。盲・ろう・養護学校は11校全校がモデル校として取り組んできたが，小中学校の特殊学級や通級指導教室は学校数も多く，担任の交替も多いことから，校内組織も含め，研修体制の充実が必要になってくる。

また，保護者との連携を図るため教職員の教育相談研修などの研修も増やす必要がある。

研修については，講義形式から実際に個別教育計画を作成し，それをもとに検討する事例研修などを中心にし，個々の事例を講師がスーパーバイズする研修会が増えていくものと思われる。

資料 個別教育計画と学級の教育課程との関連

